

第 15 回 神奈川県移動性（モビリティ）向上委員会 議事要旨

1. 日 時：平成 27 年 10 月 30 日（金）16：00～17：00

2. 場 所：横浜第二合同庁舎 共用 B 会議室

3. 議 事：

（1）議題 1：委員会の検討経緯と論点

- ・ 事務局より委員会の検討経緯と本日の議題について説明した。

【意見・質疑】

- ・ 特になし。

（2）議題 2：渋滞対策の進捗状況確認

- ・ 事務局より既存事業の開通（完了）状況について報告した。

【意見・質疑】

- ・ 特になし。

（3）議題 3：最新の交通状況による分析

- ・ 事務局より主要渋滞箇所のモニタリング結果について報告した。

【質疑】

Q1 最新データで基準値を上回った箇所、下回った箇所は、資料に提示されているのか。
（委員長）

A1 対策効果がみられる 9 箇所については、本日の資料で示している。（事務局）

Q2 どのような方法でモニタリングしたのか、説明して欲しい。（委員長）

A2 走行データが計測できる車載機が搭載されている車両のデータを集計することで、旅行速度を整理・分析したものである。（事務局）

Q3-1 基準値を上回った箇所のうち、対策済み箇所以外の 24 箇所について、なぜ渋滞が減少したのか分析されているか。（委員長）

A3 24 箇所について分析中であるが、事業による影響が確認できていない箇所である。（事務局）

Q3-2 現地ヒアリングやバス・トラック等のヒアリング等で、どのような状況に変化しているのか、可能な範囲で情報を集めておくことは意味のあることと思う。（委員長）

（4）議題 4：渋滞対策箇所の効果確認

- ・ 事務局より渋滞対策箇所の効果確認について報告した。

【質疑】

Q1 圏央道の説明の中で、国道 129 号の山際交差点の交通量は増えているが、旅行速度は向上しているが、これらの状況について教えて欲しい。（相武国道事務所）

A1 交通量と旅行速度の整理では、比較に用いているデータ年が異なっていることが影響していると思われる。引き続き検証を進めていく。（事務局）

Q2 圏央道の開通による効果（ストック効果）について、実際に物流関係の施設が多くなっているのか。（横浜国道事務所）

A2-1 インターチェンジが近いこともあり、物流企業が増えている状況である。インベスト神奈川の影響からなのか、製造業も若干増えている。（相模原市）

【意見】

- 「道路を賢く使う」観点での渋滞対策については、車だけでなく歩行者にとっても安全性が向上する等のことについて分かり易く伝える配慮が必要である。（委員長）

【質疑】

Q3 卸センター入口交差点の取組は、とても良いことと思われるが、事業を進めるにあたって、どのように進められたのかを教えて欲しい。（川崎国道事務所）

A3 事業実施にあたっては周辺住民に対して丁寧に事業の説明を行っており、もともと渋滞している箇所であったためか、事業後の苦情等は寄せられていないと思われる。（横浜市）

（5）議題5：優先検討箇所の検討状況

- 事務局より優先検討箇所の検討状況について説明があった。

【質疑】

Q1 現地判断する場合、現地に行く時間帯などはどのように考えているのか。（委員長）

A1 モニタリング指標（平日昼間ピーク時速度等）のデータを用いて、現地確認する時間帯等を整理することを考えている。（事務局）

Q2 天候等によっても混雑は変わるので、複数の日時で確認するなど、丁寧に現地診断していく方法を考えてもらいたい。（委員長）

A2 今後、各道路管理者で現地診断の方法について議論していきたい。（事務局）

（6）議題6：ワーキンググループの進捗状況報告

- 相武国道事務所より中央道渋滞ボトルネック検討WGの開催概要について説明があった。
- 事務局より神奈川県東名軸渋滞ボトルネック検討WGの開催概要について説明した。

以上